

——親しんできた  
漢文

谷沢 僕らの中学時代には、授業に漢文がありました。国語の教科書とは別に、漢文の教科書もありましたから、誰もがそこで四書と出合うことができた。そこで親しんだ言葉は、人生のいろんな場面で自分を支えてくれたものです。

渡部 主要科目は英数国漢でしたからね。しかも漢文は、塩谷温先生あたりが編集した立派な教科書でね。

谷沢 僕は大阪の天王寺中学を出たんですが、漢文の先生は漢助、すなわち「漢文助平」というあだ名の水木直箭先生（著書『随筆折口信夫』）でした。水木家というのは大変学問の伝統のあ

る家で、ご本人も柳田国男、折口信夫両先生から信頼された優秀なお弟子さんでした。民俗学だから話がつい性風俗に及ぶ。だから僕は漢文というと、「漢助先生」が教科書を朗々と読み上げる姿がまず浮かぶんです。

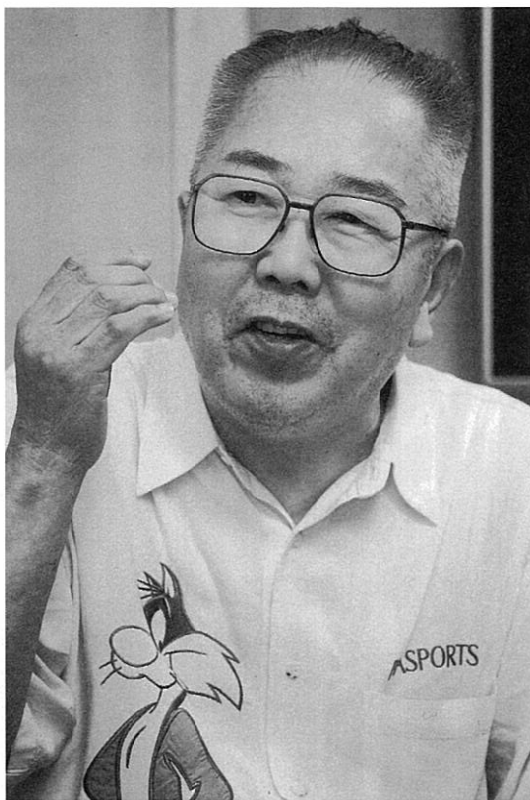
渡部 当時の先生は読むのが皆うまかったですね。

谷沢 抑揚があつて、切るべきところで切つてね。漢文は切るべきところで切るといのが一つのポイントです。だから僕なんかも、そこで漢文の魅力随分教わりました。

渡部 僕が漢文に目覚めたのは小学校五年頃でした。野村愛正の『三国志物語』にのめり込んで、曹操や孔明の姿が目につかぶくらい読み込みました。そんな時に『キング』の折り込みみに『唐詩選』が載っていて、「春望」という五言絶句が載っていたんですが、『三国志物語』を読んでいるから、そういう光景がパッと浮かぶんです。

それがきっかけで、ああ漢文をやりたいと思ひましてね。姉が買ってくれた塚本哲三の『基礎漢文解釈法』を、毎朝電の灯りで読んでました。だから中学に入って勉強しなくてもできた唯一の学科が、漢文なんです。中学二年の時は『論語』でしたね。

●対談——谷沢永一&渡部昇一



関西大学名誉教授

谷沢永一

たにざわ・えいいち 昭和4年大阪府生まれ。32年関西大学大学院博士課程修了。関西大学文学部教授を経て、平成3年より名誉教授。文学博士。専門は日本近代文学、書誌学。社会評論でも活躍。著書に『人間道』『聖書』で人生修養、『名言の智慧 人生の智慧』『いま大人に読ませたい本』『人間の見分け方』『山本七平の叔智』『読書通』の巨人に出会う愉しみ』など多数がある。

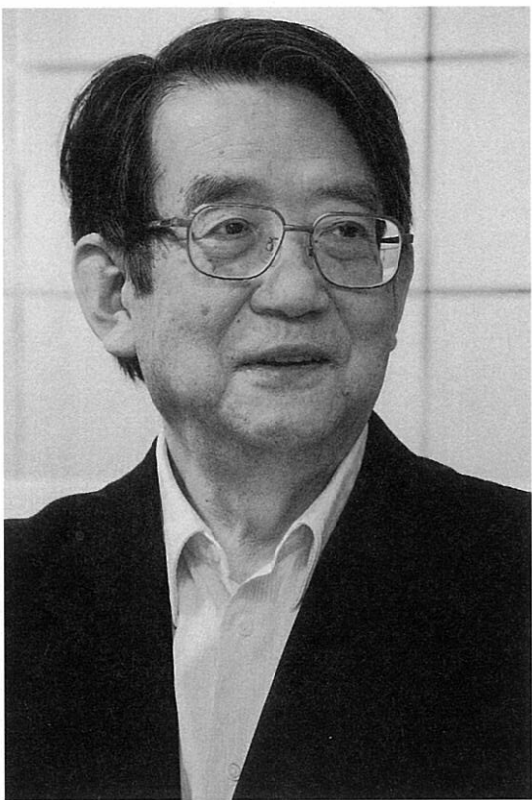
混沌とした世情の中で道を踏み外すことなく生き抜くためには、確固たる人生の指針が必要である。

日本人の精神に深く浸透している中国古典は、決断に迷う時、失意にある時、私たちを勇気づけ、導いてくれる。

古今の名著に通暁した谷沢永一氏と渡部昇一氏に、中国古典から心に響いた言葉を選んでいただき、そこに示される人生の大則を学ぶ。

中国古典に学ぶ

人間学



上智大学名誉教授

渡部昇一

わたなべ・しょういち 昭和5年山形県生まれ。30年上智大学文学部大学院修士課程修了。ドイツ・ミュンヘン大学、イギリス・オックスフォード大学留学。Drphil, Drphilhc。平成13年から上智大学名誉教授。幅広い評論活動を展開する。著書は専門書のほか『ヒルティに学ぶ心術』『歴史に学ぶリーダーシップ』『幸田露伴に学ぶ自己修養法』など多数。近著に『東京裁判を裁判する』『渡部昇一——男の器量を磨く生き方』。時流を読む眼力などがある。